

このような現象が生じているものと考えられる。

2.1.3 開発鋼高 EI タイプの実部品成形評価例

前述の通り、開発鋼高 EI タイプは、従来型 DP 鋼板に比較して、張出し、深絞りともに上回る成形性を有していることがわかった。そこで、実部品相当の形状における開発鋼の優位性を確認するため、センタピラーを模擬したモデル金型のストライカを用いて成形性を評価した。プレス成形品形状を図 5 に、割れ危険部位の断面（図 5 の A-A 断面）を図 6 に示す。現在 980MPa 級が採用されている量産センタピラーに比べ、各肩

